

石神中学校だより 8号

発行日：令和2年 7月22日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

第1回定期テストを行いました！

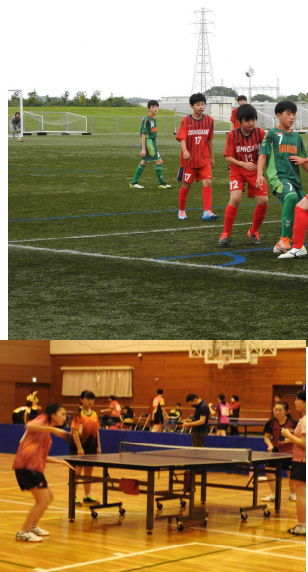
7月13日～14日に第1回定期テスト（期末テスト）が行われました。本来、6月中旬頃に計画していました期末テストですが、5月の学校再開に伴い、テスト期日の変更となりました。1年生は、中学校入学後、初となる定期テストとあって、いつもより緊張しながら試験に臨む姿が見られました。そもそも定期テストはなぜ行うのでしょうか。定期テスト（中間・期末テスト）は、学校で、各教科の学習成果や教育効果を通して、成績評価するために定期的実施される試験のことをいいます。自分が理解しているところ、理解できなかったところを知ること、自分の弱点を克服するためにも必要なものです。日々の継続した学習が大切です。次回の定期テストに向けて頑張りましょう！



初めての定期テストに挑む1年生

部活動の近況をお知らせします！

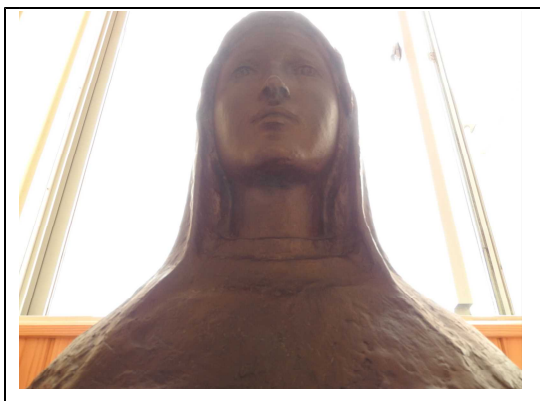
7月に入り、土・日曜日の活動や他校との練習試合なども行うようになりました。サッカー部は5日に相馬市光陽サッカー場を会場に原町二中と練習試合を行いました。ユニホームを着てピッチに立つ姿は、生徒自身はもちろん、応援する保護者にも笑顔が見られました。また、バスケットボール部男女は、18日本校体育館で中村二中と練習試合を行いました。今月25・26日に協会主催の相馬地区大会が行われますが、3年生にとっては最初で最後の練習試合になりました。マナーの良さとハツラツとプレーする姿が印象的でした。卓球部女子は、18日鹿島中と練習試合を行いました。3年生はこの練習試合で引退するとあって試合本番のように真剣に取り組み、3年間の集大成となりました。



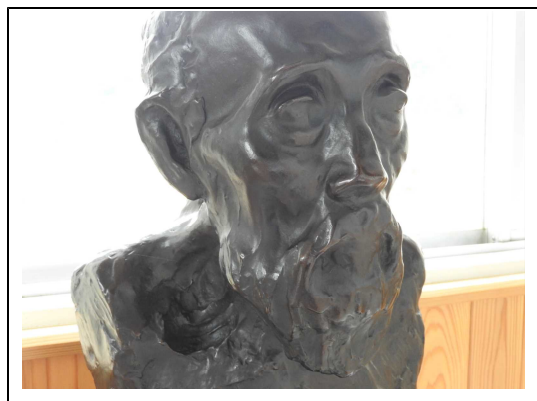
彫刻(ブロンズ像)を設置しました! ② ③

2回目は船越保武・中原悌二郎の作品と略歴です。

② **舟越 保武** (ふなこし やすたけ、1912年12月7日 - 2002年2月5日) は佐藤忠良と共に戦後日本を代表する彫刻家。新制作協会彫刻部創立会員。東京藝術大学名誉教授。文化学院出身で画家の妻道子との間に子供6人。次男の舟越桂や三男の舟越直木も彫刻家として活躍。娘の末盛千枝子(末盛憲彦の妻)は絵本編集者で「すえもりブックス」経営者。(Wikipedia)



船越保武：少女



中原悌二郎：老人

③ **中原 悌二郎** (なかはら ていじろう、1888年10月4日 - 1921年1月7日) は、大正期、日本を代表する彫刻家の一人。北海道釧路市の生まれ。17歳の時に画家を志し、札幌中を中退して上京、白馬会研究所・太平洋画会研究所洋画部で学び中村彝と親交を結ぶ。その後荻原礫山の感化によって彫刻に転じ、太平洋画会研究所彫塑部で新海竹太郎に師事。1910年第4回文展に「老人の首」が初入選した。1912年ロダンの実作に初めて触れて、深く啓発される。1916年日本美術院の研究会員に転じ、佐藤朝山・石井鶴三らとともに研鑽を重ねた。同年の第3回院展に発表した「石井氏の像」で樗牛賞を受けて院友となり、以後も同展に「行乞老人像」「若きカフカス人」「憩える女」などの作品を次々と発表する。その作風は写実に基づきながらも堅牢な構築性を示し、内面表現にも優れた。1919年の「平櫛田中像」を遺作として32歳で没した。(Wikipedia)

＜新コーナー＞四字熟語は奥が深い! ④ 四字熟語とは、日本において漢字4文字で作られた熟語を指す用語。知れば知るほど面白い四字熟語。生活の中でも十分に使えます。

堅忍不拔 (けんじんふぼつ) どんな困難や誘惑があっても心を動かさず、じっと我慢して堪え忍ぶこと。「堅忍」は意志がきわめて強く、じっと堪え忍ぶこと。我慢強いこと。「不拔」は固くて抜けない意。意志が強く、何があっても心を動かさないこと。

＜進路情報コーナー2＞

7月21日(火)に本校体育館で、県立高校の教職員をお招きし、3年生と保護者を対象に高等学校説明会を開催いたしました。13日に県立中学校・高校入学者選抜事務調整会議が行われ、来春の県立高校入試では、出題範囲を縮小する方針が出されたばかりということもあり、生徒や保護者の関心も高く、真剣に説明を聞く姿が見られました。各高校からは概要や特徴など、丁寧な説明をいただき、これからの進路選択に大いに役立ったことと思います。



